

# 2006東北こどもサミットin仙台

「伝えよう！地域の水土里の大切さ」

東北6県の小学生が農業・農村を通じた総合学習の成果を発表  
仙台で東北こどもサミット開催

9月9日(土)宮城県仙台市の仙台国際センターにて、「2006東北こどもサミットin仙台～伝えよう！地域の水土里の大切さ～」が開催されました。

現在農村では、農家の高齢化やゴミの投棄など様々な問題が出てきており、水や農地(土)や農村環境(里)を農家だけで守っていくことが難しくなっています。そこで、これまで築き上げられてきた「水土里」を農村だけのものではなく、みんなの宝として未来へ繋いでいくにはどうすればいいのかを、東北6県の代表小学校の児童による事例発表も交えながら、子供たちと一緒に考えるという内容で開催したものです。

サミットには総勢約500人、うち小学生約260人が参加しました。



こどもサミット パネルディスカッションの様子

## 開催経緯

第1回	タイトル:「ふるさとって何だろう」
平成14年度	とき・ところ:平成15年2月22日 仙台サンプラザ
第2回	タイトル:「ふるさとへの思いと未来」
平成16年度	とき・ところ:平成16年10月30日 山形国際交流プラザ
第3回	タイトル:「未来へつなごう！水土里はみんなの宝物」
平成17年度	とき・ところ:平成17年10月1日 仙台国際センター
第4回	タイトル:「伝えよう！地域の水土里の大切さ」
平成18年度	とき・ところ:平成18年9月9日 仙台国際センター

## プログラム

### アトラクション

シンガーソングライター TOMOO & AKEMI

### こどもサミット

#### (1)事例発表

とうほく だいち  
東北町立第一小学校(青森県)  
「第一小の米づくり」

はなまき やえはた  
花巻市立八重畑小学校(岩手県)  
「日本一の雑穀の里”チャレンジ！雑穀”」

とめ につただいち  
登米市立新田第一小学校(宮城県)  
「ふゆみずたんぼと田んぼの学校」

ゆりほんじょう しもかわおおうち  
由利本荘市立下川大内小学校(秋田県)  
「農業体験でふるさとに愛情とほこり」

あさひ にしいもがわ  
朝日町立西百川小学校(山形県)  
「ふるさとを見つける  
～棚田のためにできること～」

はなわ はなわ  
塙町立塙小学校(福島県)  
「田んぼの学校  
～田んぼの中から環境を考える～」

#### (2)パネルディスカッション

##### コーディネーター

タレント・パーソナリティー さくらだ あやこ  
櫻田 彩子

##### パネリスト

事例発表をした児童

ひがしろくぼんちよう  
仙台市立東六番丁小学校の児童

くりゅう つるや まこと  
仙台市立栗生小学校教諭 鶴谷 研

水土里ネットはさまがわ理事長 うえの ともみち  
上野 智通

## 開会あいさつ

### 東北農政局長 山根 祥生やまね よしおによる開会あいさつ

「“水”は人間が生きていく中で最も大切なものであり、“土”がきれいなところでないとなかなか作物は出来ません。”里”は田園の中に人間の長い営みの歴史が刻まれています。

近年、工業化・情報化社会が進む中で忘れがちな”水土里の大切さ”を自分の手や足で触れながら学ぶ事が重要です。今日の発表で交流を深めつつ、水土里に対する情報の引き出しをたくさん作りましょう」というあいさつにより、開会しました。



開会あいさつ

## アトラクション

### TOMOO & AKEMIによるミニコンサートの上演

今年度はサミットに先立ち、アトラクションとして、シンガーソングライターのTOMOO(須貝智郎さん) & AKEMIさんによるミニコンサートを上演しました。お二人は山形県内を中心にスクールコンサートやTV・ラジオで活動されており、作品には農業や命に関わる暖かみのあるものが多いです。当日は、NHKみんなのうたでも紹介されている「ごつつおさま」、「名もない花のように」等を演奏して頂きました。



TOMOO & AKEMI

## こどもサミット

### 各県代表の小学生が、農業・農村を通じた体験学習で学んだことについて発表しました。(プログラム参照)

発表に引き続き、体験学習の感想として「米づくりの大変さを実感した」、「冬水田んぼを知った」、「生き物の見分け方を知った」、「苗の生命力にびっくりした」、「自分たちで作った米でのおにぎりのおいしさは忘れられない」、「棚田があった事を知らなかったが、大切さを知った。」、「棚田が好きになった」、「棚田のPR方法に悩んだが、みんなで解決した」、「自然とふれあうきっかけとなった」、「泥の感触が楽しかった」、「いろいろな生物がいることにびっくりした」などの発言がありました。



小学生による事例発表

事例報告に続き、パネルディスカッションを行いました。

都市部の小学生を代表して参加した仙台市立東六番丁小学校の児童から、「自然が多いところは不便な感じだが皆さんの環境はうらやましい。大人になった時も農業は残してほしいと感じた」など、事例発表に対する感想を頂きました。

その後、「自分たちの地域にある”水や田んぼ、畑のある農村”のことをどのように感じ、将来、大人になったときにどのような姿であってほしいか、またそのために、自分たちがどのようなことを出来るか」をテーマに、発言を頂きました。

事例発表をした小学生からは「地域の方々が作った米・野菜を食べているが、有り難いことだと思うようになった。このような地域を残していきたいと思った」、「地域の素晴らしさを子供たちに話せる大人になりたい」、「都会に無い水田を残したい。水を大切にする、ゴミを捨てない等、大人になってもがんばりたい」「地域の風景が好き。これからも残していきたい」、「棚田の重要性を再認識した。農作業は大変だけれど、まわりの市町村とも協力して守ってほしい」などの発言がありました。

パネリストの鶴谷氏からは、「全校で米作りに取り組むなど素晴らしい活動に感心した。また、地域のお年寄りの方々と深く関わりを持ちつつ取り組みを行っており、これが地域の”力”となっていると思う。これらの取り組みを都市部の子供たちに体験させられるように関係機関に協力して頂ければ」との感想を頂きました。

上野氏からは、「農業・自然環境にこれほどの関心を持っているとは思っていなかった。このような体験を通じて地域農業の重要性をPRして欲しい。また、農家ががんばっているからこそ、地域の自然・環境が守られているので、一般の方々のご協力を頂きながら魅力ある農業としていきたい」との感想を頂きました。

櫻田氏からは、「子供たちのたくましさを実感した。体験を通じ、農業や地域の風景、環境の重要性を認識した。これらを守り、遺す為に自分たちの出来ることからやっていくことが重要。子供たちだけでなく、我々大人も一緒に活動していきたい」と期待を込めました。



パネルディスカッション

## まとめ

最後に丸山整備部長から、「弥生時代から二千年をかけて農村の風景が作られ、その骨格は農業農村整備事業で整備されたものです。今後もこれらの美しい景観やドジョウやメダカが生息出来る豊かな自然環境づくりを心がけて事業を行っていきたい。水路や田んぼは地域の共有財産です。皆さんと一緒に守り、遺す努力をしていきたい。」とまとめ、内村局次長の閉会挨拶により終了しました。



東北農政局次長閉会あいさつ



記念撮影